

クリスマス礼拝

2022年12月18日（日）

題 「御子イエスの誕生」

テキスト：ルカによる福音書2章1～7節

皆さん、おはようございます。

クリスマスおめでとうございます！

今年もこうして集まってクリスマス礼拝を捧げることができますことを主に感謝いたします。

神さまの恵みと祝福がみなさまの上にありますようにお祈りいたします。

クリスマスのご案内にも記しましたように。

洲本教会は今年教会創立119周年を迎えました。神さまの憐みと恵み、信仰の先達の労苦を覚え一同心から感謝しています。

ご存知のようにもうすぐ丸3年になろうとする新型コロナウイルスの感染拡大は私たちの生活や教会にも多くの影響を与えて来ました。今もその中を歩んでいます。でも、少しずつ社会的な活動も戻りつつありますが、まだしばらくはそれぞれが気をつけながら歩みたいと思います。

また、今年は2月にロシアによるウクライナ侵攻がはじまり、多くの尊い命が奪われ、街が破壊されています。一日も早い終結、平和の実現を祈ります。そしてまた、7月に起こった元首相の銃撃事件から明るみに出て来た政治家と反社会的な団体との癒着について、わたしたちは日本の政治が清まるように祈ります。

日本及び世界中に苦しんでいる人々の上に神さまの癒しと平安を祈りらずにはおれません。明るい話題としてサッカーワールドカップでの日本選手の活躍があります。また最近では日本の防衛費増加のことで悩ましい問題が出て来ています。厳しい状況ですが近隣諸国との健全な外交関係が結ばれ、良い関係が保たれて行くことを願い祈ります。

しかし、そのような厳しい状況の中にも、私たちは、決して希望を失わず、神の恵みと愛があることを信じて、どのような中であっても、すべての悩みを神さまにあるがまま打ち明け、神と主イエスに希望をおいて生きて行きたいと願います。主イエス・キリストは、私たち一人一人に神さまの愛を伝え、希望の光を与えるために誕生してくださったのです。クリスマスは、その御子イエスさまの誕生を心から共に喜び祝う時です。主のご降誕を覚え、平和を求め、

互いに大切にし合い新しい年に向かって行きたいと願っています。

今日は礼拝の中で御子イエスの誕生の聖書の場面が読まれました。

共に心に覚えたいと願います。

◆イエスの誕生

1:そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。

皇帝アウグストゥスとは、初代のローマ帝国の皇帝の名前です。

オクタビウスとも言われます。時は、今から約2022年前のことです。

ご存知の方も多いように、西暦は、今では世界の共通の年号となっていますので、世界の標準歴ともいわれます。これは聖書に記されているイエス・キリストの誕生から始まっているのです。主イエスが、正確に何月何日に生まれたということは確かめようがないのですが、イエスが生まれ、存在したということは、聖書以外でもヨセフスという古代の歴史家は、書物の中で記しています。世界各地に人間の手による神話や作り話が多い中で、もちろん神話にも意味はあるとは思われます。しかし、イエスの誕生は、決して神話や作り話などではなく、歴史上の事実なのです。これは極めて重要なことだと思えます。

時は、ローマ帝国が地中海全域を支配していた時代です。歴史的資料によれば、皇帝アウグストゥスはローマ帝国の絶対的権力者でありました。それに比べればユダヤ地方は、ローマに支配された小さな国でした。しかし、ここに神の独り子は生まれたのです。聖書はそのように証言しているのです。

私たちが聖書を読む時、学ぶ時、忘れてはならないことは、イエスは世界史の中、世俗史の中にお生まれになったという事実です。

また初期の教会の信仰告白では、イエスは十字架につけられ殺されましたが、3日目に復活され、天に昇られ、天と地を創造された神と等しい地位についておられる、と告白されます。これが意味することは、クリスマスの出来事は神の世界介であったということです。

馬小屋の飼い葉桶に生まれたイエス。

この方は、生涯愛を貫き生きて行かれました。貧しい者、悲しみ悩める者、病人、障害者の友として生きて行かれました。地上では罪と恥の象徴である十字架を担って、つまり人間の罪を担って生きて、そして死なれたのです。これが神の子イエスです。しかし、今は神の元で目には見えませんが、まことの王として存在しておられるのです。地上の権力のような武力ではなく、徹底的に愛をもって世界を保ち、維持し、担い、支配されておられるのです。

天地を創造された神が、御子イエスをこの世のただ中に送られ、イエスはこ

の世界で生きられたのですから、キリスト者は、この世のこと、この世界のことを無視することはできないのです。十分ではなくても、世界に目をとめ、歴史に学ぶ、そして生きるという謙虚な姿勢が大切だということを学ぶのです。

2 節には、イエスが誕生した時のことが記されています。

2:これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。

3:人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。

何のための住民登録かは書いてありませんが、おそらく税金をとるために住民の登録が必要だったのだと多くの良心的な聖書研究者は言っています。税金をとるためだけではなく、古代から国家は、良し悪しは別にして、いろんな目的のために、住民の登録を強要しました。

それは2000前のローマ帝国内では断ることはできないことでした。断れば罰を受けることを意味することです。日本では今は政府に反対意見をいうことや、宗教の自由は、憲法や法律で各自の自由ですが、戦前の日本では政府に反対する人やキリスト教会も迫害されました。今でも世界にはそのような国々があるのが現実なのです。

4:ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

5:身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。

マリアの夫ヨセフは、ダビデの家系、血筋で、ユダヤのベツレヘムと登録しなければなりません。ちなみにマリアという名前には「愛される子」とか、「高められた者」という意味があります。ヨセフの名には「神が増し加えられる。」という意味があります。なお「ベツレヘム」という地名には由来は分かりませんが「パンの家」という意味があります。美味しそうな名前です。

ガリラヤのナザレからユダヤのベツレヘムのまでは、直線距離でおおよそ100Kほど。車のない時代のこと、歩くかロバに揺られてか、身重のマリアにとっては苦しい旅、それを支えるヨセフの苦労が偲ばれます。国家の命令には従わざるを得ない苦難の旅でした。神の子イエスの誕生前から十字架の苦難の道を創造させる出来事だと思います。しかし、忘れてはならないことは「この旅にも、神はともに寄り添ってくださった。」ということです。

讚美歌の「山路越えて」と思い出します。1 節「山路越えて ひとりゆけど 主の手にすがれる 身はやすけし」私たちも人生で、困難な旅路を送ることはあると思われます。しかし、主なる神は共にいてくださるのです。

6:ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、

7:初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼

らの泊まる場所がなかったからである。

そこで、マリアは初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせました。非情事態、緊急事態での出産でした。でもマリアとヨセフ、御子イエスは守られました。ベツレヘムの村にはやさしい人たちもいたでしょう。羊や馬など動物たちもいました。

「布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。」

「飼い桶」。ドイツ語では「クリッペ」といいます。クリスマスの飾りにもあります。こども讃美歌に「かいばおけに すやすやと ねむるみこは しゅ〜イエスさま そらにひかる ほしたちも そのたんじょうをいわいます。」と賛美されています。

わたしたちが、どのような状況にあっても、聖書の言葉に出会い、そのことばを思い巡らす中に、聖霊の助けにより、神さまは共にいてくださると思わされるのです。これは愛なる神さまから頂く大きなクリスマスの恵みだと思います。御子イエスは世界の現実の中に、わたしたちの中に誕生してくださいました。それゆえ、今も後も、わたしたちは神を褒め称えます。ハレルヤ！

皆さまの上に、

主の平安を祈ります。